

2026年 新年のごあいさつ

誰もが輝く未来

—新たなるステージ—

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、市政運営に深いご理解とご協力、温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

「みんながしあわせに暮らせる長井」の実現に向けて

令和6年度からスタートした長井市第六次総合計画で掲げる市の将来像「みんながしあわせに暮らせる長井」の実現を目指し、本年も各種施策を展開してまいります。この将来像の根底にありますのは、本市名誉市民である彫刻家・故長沼孝三氏の言葉「平和を愛し、共存を尊ぶ長井の心」まさにそのものです。本市は恵まれた自然環境のもと、最上川舟運を通じて日本各地から多くの人や物が集まり、それらを受け入れ、独自の文化を築き上げてきた歴史があります。これまで培われた異文化や多様性を受け入れる地域性を土台とし、持続可能で魅力あふれるま



ち、そして、ダイバーシティやインクルージョンを体現したまちを実現するため、市民の皆様や地元企業、関係団体の皆様と手を携え、全力で取り組んでまいります。

夢を育み元気に活躍できるまちづくり

本市はこれまで「教育と子育て」を市政運営における大きな柱に位置づけ、児童生徒一人ひとりの個性を輝かせる教育や、子育て世代に選ばれるまちづくりを注いでまいりました。同時に、社会構造の変化により衰退しつつある地域コミュニティの活性化に向け、平成31年度までに市内全地区の公民館をコミュニティセンター（以下、コミセン）へと移行しました。令和3年には法人格を持つ組織を設立し、各コミセン運営の強化を図るとともに、自主的な地域づくりへの支援や人材育成・運営支援を継続してまいりました。

長井市長 内谷重隆

県内の人口が100万人を割るなど人口減少が急速に進んでいます。そのような中で、本市の教育環境と地域づくりをより良い方向へ導くため、子どもたちや子育て世代の視点を政策の中心に据え、すべての子どもが健やかに成長できる「子どもまんなか社会」の実現を目指してまいります。小学校を中心とした地域づくり、地域みんなでこどもを育てる環境づくりを進めるために、コミセンや児童センターなどの複合化など、様々な視点から検討してまいります。

また、海外姉妹都市バート・ゼッキンゲン市（ドイツ）をはじめとした国々の青少年が集い、交流を深める「国際ユースキャンプ」への中高生の派遣など、長井の次世代を担う子どもたちに国際交流の大切さ、面白さを学んでもらう機会の創出に引き続き取り組んでまいります。

住みやすく住み続けたいくなるまちづくり

風景の国宝と言われる国選定重要文化的景観を構成する「宮・小桜街区」を中心に、まちを歩き、芸術・文化・スポーツといった「あそび」を楽しむ空間整備に取り組めます。具体的には、周辺の空き家を活用したミニ美術館や

長井ならではの食事・体験を楽しむ場を整備していきたいと考えています。舟運文化で栄えたまちなみや地域に根付いた文化に触れながら、市民同士はもちろん、観光客と地元の人々が活発に交流できる環境づくりを進めてまいります。

市庁舎及び長井駅から国道287号、道の駅までを結ぶ「都市計画道路長井駅海田線」街路整備事業については、山形県に着実に進めていたためです。同時に、長井駅前周辺地区における市街地再開発に向けて、近隣住民の皆様や地元商店街の皆様からご協力をいただき、また、民間事業者と連携しながら、買い物・飲食・交流の場の整備を進めてまいります。そして、若者や子育て世代が住み続けようと思える魅力的な都市機能の充実を図ってまいります。

これらのまちなかの包括的な整備により、持続可能かつ居心地がよく歩きたくなるまち「ウォークアブルシティ」の実現を目指してまいります。

結びに、本年も皆様からの変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、この新しい年が、皆様にとって希望に満ちた輝かしい1年となりますことを心からご祈念申し上げます。



▲宮・小桜街区の旧丸大扇屋



▲ドイツ・イタリアで開催された国際ユースキャンプ



▲キャリア教育のひとつ「起業体験ワークショップ」



▲コミセンでのいきいき百歳体操



▲児童センターでの活動の様子